

## まえがき

本書は、くれぐれも成功者が書いた成功ヒストリーをつづった内容ではありませんので、ご注意ください。子どもの頃の夢はプロサッカー選手。夢を追いかけて学生時代に日々練習するも、挫折によって夢半ばで諦めて終わってしまふ。今まですつと追いかけていたものが突然なくなつたときに、ふと自分を見つめ直すと他にやりたいことやできることが何もないことに気づかされる。大きな虚無感に包まれながら、世間の流れにただ身を任せて社会人になる。仕事に楽しさ・やりがいを見いだせず、毎日家と会社のピストン運転。休日にはだらだらと時間がたつのを待つて刺激のない日々を過ごす、どこにでもいるような二十代。そんな僕がたまたま観た一本の動画をきっかけに、新しく熱中できることに出会います。勢いだけでサラリーマンを辞めて独立する決意をしたあと、何もわからないまま行き当たりばったりで自分の店舗を構え、悪戦苦闘の毎日。そんな中でも、日々がむしゃらに行動して少しずつ前へ進む様子をつづっています。

成功者が十で、やりたいことがない人や何かを始めたばかりの人をゼロや一だとします。一の人がある十の人を見たときに、遠すぎて自分とは違う才能を持った別世界の人間だと感じてしまふと思います。

しかし、現在三あたりをもがきながら少しずつ進んでいる僕のような人間が書く本なら、もしかしたら身近に感じることもあるかもしれません。僕自身がまだ成功していないので、決して成功の秘訣を書いた本ではありません。ただ『こんなやつでも進めるなら、自分でも何かできるかも』と共感してもらったり、少しでも刺激になれたりすれば僕としては御の字です。

何かを始めてうまく進み出すと、周りの人は「才能があつたんだね」と言うけれど、勇気を出せば実は誰にでもできることが世の中にはあふれていると思います。本書は、今から何かを始めてみようと思っていたり、まだやりたいことが見つかっていなかったりするすべての人にぜひ読んでほしい一冊です。